

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：37111

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K20742

研究課題名（和文）「小1の壁」問題に直面した看護職員のストレスと就業継続困難となったプロセス

研究課題名（英文）Nursing Staff Stressors and Difficult Processes of Continuing Work When a Child Enters Elementary School

研究代表者

池田 智 (Ikeda, Satoshi)

福岡大学・医学部・助教

研究者番号：90759268

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は「小1の壁」問題に直面した看護職員のストレスと就業継続困難となったプロセスを明らかにする事を主な目的とした。分析の結果、4カテゴリー、22のサブカテゴリーが抽出された。子供の小学校への就学に関連する主なストレスとしては【授業参観に出席するための日程調整】、【PTAなどの小学校での役割とその調整】、【子供の夏休み期間中の対応】、【突然の小学校休校に伴う勤務の調整】、【学童保育の時間制限】、【小学生になった子供に対する親としての関わり方の変化】、【幼稚園・保育園から小学校への環境の変化】、【子供の通学時の心配】、【宿題のチェックや翌日の準備】等が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小学校入学の過渡期において、子を養育しながら就業する看護職員は多種多様なストレスを抱えていた。看護職である彼らは時に夜勤等に従事しなければならない。また、子供の状況や心身の変化に即対応できるよう、今ある資源を駆使しながら勤務を継続している者もいた。その他重要な視点として、看護職というキャリアに対する考えが就業を継続するか否かに影響していた。看護職におけるこれまでのキャリアと現在の状況、今後のキャリアプランについて葛藤していた様相はワークライフバランスの概念において「これまでのキャリアの保障」と「今後のキャリア支援」が必要不可欠であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the stressors of nursing staff who faced the "first grade wall" problem and the processes that made it difficult to continue working. As a result of the analysis, 4 categories and 22 subcategories were extracted. The main stress factors related to attending elementary school are [Adjustment of school days], [Role and adjustment of PTA in elementary school], [Reaction of children during summer vacation], [Adjustment due to sudden school break] adjustment, Confirmation of [after-school childcare period], [Changes in how parents interact with children who have become elementary school], [Changes in environment from kindergarten / nursery school to elementary school], [Anxiety when children go to school], [Homework and the day after preparation] etc.

研究分野：看護職のメンタルヘルス

キーワード：小1の壁 ストレス 就業継続困難 看護職 メンタルヘルス

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

## 1. 研究開始当初の背景

### 1) 看護職員の離職と潜在化

現在看護職員の就業者数は約 157 万人（平成 26 年：看護関係統計資料集）とされており、「超高齢社会」を迎える 2025 年には約 200 万人の看護職員が必要とされているが、年間 10% 近くの国家資格を有する看護職員の離職は異様な事態である。離職後、現在未就業の看護職員を潜在看護職員と呼び約 71 万人（平成 22 年末推計：厚生労働科学研究）いるとされている。「看護職員就業等実態調査」（2011）によると、「結婚」、「出産」、「子育て」を理由とした離職が最も多く、潜在看護職員の年齢層別に推計した結果では、30 歳代が 30% を占めて一番多い。つまり看護職員の離職者の多くは、出産・子育て等の女性のライフイベントが生じた際、それらイベントに対する支援不足が原因で働き方の変更を強いられた結果、離転職に繋がっている可能性が高い。さらに、潜在看護職員の多くが 30 歳代であることから、多くが現在子供を養育している最中であることが考えられる。

### 2) 潜在看護職員に対する支援

2015 年 10 月より看護職の免許保持者は、現在の職場を離職した場合に、都道府県ナースセンターへ氏名や連絡先等を届け出る事が努力義務となった（「看護師等の人材確保の促進に関する法律」）。今後は看護職のナースセンターへの届出制度で離職者を把握し、復職を希望した者に対しタイムリーに復職支援（情報提供や技術研修の実施等）を行えるよう潜在看護職員確保を目的とした体制が整いつつある。

### 3) 女性労働者の権利とワーク・ライフ・バランスの推進

労働基準法では産前産後休暇、妊産婦に対する変形労働時間制等の適用制限、1 歳未満の子を養育する女性労働者の育児時間の請求（第 65, 66, 67 条）等、産前産後における権利は十分でないながらも法制化されている。また育児・介護休業法では、3 歳未満の子を養育する従業員について、従業員が希望すれば短時間勤務制度、所定外労働の制限を適用する事ができ、対象となる女性労働者は、仕事と家庭の両立が出来る働き方が以前に比すれば可能になったという事が出来る。

### 4) 看護職におけるワーク・ライフ・バランス

日本看護協会は 2007 年度から、「専門職として働きがいのある労働条件の整備」と「生活者としての適切なワーク・ライフ・バランスの実現」をビジョンに掲げ、子育て支援の導入を通じて、看護職のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて取り組んでいる。「2014 年度看護職ワークライフバランスインデックス調査」における育児・介護休業法を超える制度内容（上限年齢）と実施施設数によると、養育する子供が 3 歳以上であっても育児短時間勤務制度を独自に導入している施設は 384 施設のうち 112 施設（全体の 30%）であった。これは 3 歳という法定年齢を超えても子供を養育する女性労働者には支援が必要である事と、それに対する施設独自の支援体制が徐々に広まりつつある事を示唆している。

### (5) 看護職における「小 1 の壁」問題に対する現状

しかし、それでもなお離職者が減少しないのはなぜなのか。その疑問に関して申請者は昨今問題視されている「小 1 の壁」問題が大きく関与しているのではないかと考えている。

「小 1 の壁」問題とは、主に共働き世帯において、子どもを幼稚園・保育園等から小学校に進学する際に直面する社会的な問題の事を指す。その問題に直面した女性労働者は働き方の変更を強いられた結果、離転職に至るといった現在の日本における重大な社会問題であり、看護職員に限った話ではない。一般的には学童保育の不足、保育時間が短いといった問題が議論されているが、「小 1 の壁」問題は単に学童保育の質と量の不足だけではなく、子

供を養育しながら働いている女性労働者のストレスという心理的側面を含む多種多様な要因が存在している。さらに、看護職においては夜勤・交代制勤務を代表する職種であることから、一般女性労働者が直面する問題とは差異があるかもしれない。「2014年度看護職ワークライフバランスインデックス調査」によると育児短時間勤務制度の上限を3歳以上まで引き延ばした112施設のうち上限を6歳までとしている施設が91施設（全体の24%）、6歳以上まで適用している施設はわずか17施設（全体の4%）であったことを考慮すれば、6歳までの未就学児童を養育する看護職員に対する支援体制は徐々に整えられつつあるが、小学校入学以降（6歳～）の就学児童を養育する看護職員に対する支援は皆無と言え、「小1の壁」問題に対する支援はほぼ行われていないのが現状である。これまでに、「小1の壁」問題をキーワードとした研究はなされていない。また「小1の壁」という用語の定義も曖昧なため、「壁」自体が何を意味するのか厳密に検討された文献は見当たらないことから、一から検討しなければならない課題である。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は「小1の壁」問題に直面した看護職員のストレスを明らかにし、就業継続困難となるプロセスを明らかにする。

## 3. 研究の方法

### 1) 用語の操作的定義

#### (1) 「小1の壁」問題

主に共働き世帯の子どもが幼稚園・保育園等から小学校に就学した後のタイミングに生じる、養育者の就業継続を困難にする心理・社会的問題の事を指す。

### 2) 対象

「労働政策研究報告書 No. 159」（2013）によると、一般女性労働者の養育する子供が小1（6歳）、小2（7歳）、小3（8歳）になると就業率が大幅に落ち込んでいた。この結果より、5歳（就学前）、6歳、7歳、8歳いずれかの子供を現に養育していて、現在離転職を考えている看護職員。もしくは、3年以内に遡って当時、5歳～8歳の子供を養育し、離転職をした経験を持つ看護職員を選定し、4名を対象とした。

### 3) 調査方法

方法は質問紙法とインタビュー法（以下インタビュー）を用いて、2018年3月～2019年9月に実施した。インタビュー前にフェイスシートを用いて対象者に個人属性を記入してもらった。内容は年齢、職種（取得資格全て）、看護職経験年数、職位、勤務場所の計5項目とした。インタビューの内容は、独自でインタビューガイドを作成し、以下の内容に沿って質問紙、自由に語ってもらった。インタビューは参加者の許可を得てICレコーダーに録音した。

- (1) 職場を辞めようとしている、もしくは辞めたきっかけ
- (2) 研究対象者と子供との関係（例：家で過ごす仕方、宿題、お弁当作り、習い事など）
- (3) 研究対象者と小学校との関係（PTA、学童保育、担任との関係、保護者との関係など）
- (4) 研究対象者と子供以外の家族との関係（夫、親など）
- (5) 研究対象者の現職場、もしくは前職場における困りごと
- (6) 子供の就学に際して困った、もしくは今後困るかもしれない出来事

### 4) 分析方法

分析は質的帰納的方法を用いた。対象者が語った内容を全て逐語録にし、National Institute for Occupational Safety and Health (以下 NIOSH) モデルの「職場のストレス」、「個人的要因」、「仕事以外の要因」、「緩衝要因」に着目し元データの意味を解釈し 30 字程度要約した (コード化)。次に類似するコードを集めてサブカテゴリーを作成し、サブカテゴリーの相違点と共通点を比較分類してカテゴリーを作成した。

#### 4) 倫理的配慮

調査は研究対象者に対し、口頭と文章で研究の概要・個人情報の取り扱いを説明し、書面にて同意を得た後に実施した。なお本研究の実施にあたっては福岡大学医に関する倫理委員会の承認を得た (承認番号 2017M032)。

#### 4. 研究成果

データ分析の結果、4 カテゴリーと 23 のサブカテゴリーが抽出された。職場のストレスに関するサブカテゴリーは、【仕事の要求度が高い】、【日勤以外の勤務形態に応じなければならない】、【職場の人員不足】、【年休消化できない】、【夜勤ができない事で給料が減る】、【自己研鑽の機会 (研修など) に積極的に参加しづらい】であった。個人的要因については、【今後のキャリアプランと子育ての葛藤】、【日勤以外の勤務ができない事に対する他スタッフへの申し訳なさ】であった。小学校に関連した仕事以外の要因は【授業参観に出席するための勤務調整】、【PTA などの学校における役割と調整】、【入学当初において学校が早く終わる】、【子供の夏休み期間中の対応と関わり方】、【学校の突然の休校に伴う勤務調整】、【子供の突然の病気による勤務調整】、【学童保育の限られた時間】、【小学生になった子供との関わり方】、【環境の変化】、【通学時の心配】、【子供の宿題や翌日の準備】であった。周囲のサポーターに関連する要因は、【職場に同じ境遇のスタッフが少ない孤独感】、【上司との調整】、【家族等の内的な人的サポートの不足】、【現在サポートしてくれている親の今後】であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中島充代、池田智	4. 巻 2
2. 論文標題 精神看護学実習における精神科看護技術の到達度調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 福岡大学教職課程教育センター紀要	6. 最初と最後の頁 147 155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古賀佳代子、木村裕美、檜垣靖樹、西尾美登里、久木原博子、池田智、井上ゆりこ	4. 巻 21/1
2. 論文標題 熊本地震6カ月後における就労者の睡眠と主観的健康状態との関連要因	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 健康支援	6. 最初と最後の頁 45 51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田智、松枝美智子	4. 巻 42/3
2. 論文標題 特定機能病院に勤務する新卒看護師のアイデンティティ、職業性ストレス、組織風土と精神健康度の関連	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業医科大学雑誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Makoto Masumitsu, Aki Sato, Hiromi Kodama, Seita Kuzuhara, Naoki Ariyasu, Tomohiro Matsumura, Tomoyuki Ueda, Kazumi Nishimura, Satoshi Ikeda, Tamami Ueno
2. 発表標題 Learning, Bonds, and Prospects Which Are Seen from Activities for the Improvement of Young Nursing Teachers' Skills
3. 学会等名 The 3rd International Conference on Caring and Peace in Fukuoka (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古賀佳代子、木村裕美、檜垣靖樹、池田智、西尾美登里
2. 発表標題 熊本地震で被災した中小規模事業所の就労者の健康状態に関する研究
3. 学会等名 第76回 日本公衆衛生学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 増満誠、上田智之、中本亮、池田智、葛原誠太、松村智大、森雄太、有安直貴、木村涼平
2. 発表標題 若手看護教師力向上のプロジェクト（第4弾）～ちょっと気になる学生の支援のイロハを考えよう～
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池田智、松枝美智子、増満誠、中本亮、畑辺由起子、山下真範、入江正光、宮崎初、中島充代
2. 発表標題 病院に勤務する精神看護専門看護師の配置と活用に関する要因
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松枝 美智子、池田 智、増満 誠、中本 亮、畑辺 由起子、山下 真範、入江 正光、宮崎 初、中島 充代
2. 発表標題 各都道府県の子精神科平均在院日数と各都道府県のリソースナース数や養成課程数との関連
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kayoko Koga, Hiromi Kimura, Yasuki Higaki, Satoshi Ikeda, Midori Nishio, Hiroko Kukihara
2. 発表標題 A relation between house damage situation and health condition for the workers 6 months after the Kumamoto earthquake
3. 学会等名 The 21st EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) & 11th INC (International Nursing Conference)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松枝美智子、池田智、増満誠、宮崎初、中本亮、畑辺由起子、入江正光
2. 発表標題 自殺率と各都道府県の精神保健医療に携わる看護師をはじめとするゼネラリスト数との関連
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田智、松枝美智子、増満誠、宮崎初、中本亮、畑辺由起子、入江正光
2. 発表標題 各都道府県における精神科病院の平均在院日数、病床数と精神保健医療職者数の関連
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松枝美智子、池田智、四本優子、山下真範、畑辺由起子、増満誠
2. 発表標題 精神看護専門看護師教育課程の有無による精神看護学の教員数の有意差
3. 学会等名 一般社団法人日本看護研究学会第44回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田智、松枝美智子、増満誠、山下真範、畑辺由起子、四本優子
2. 発表標題 看護系大学大学院の教育課程の違いによる精神看護学の教員数の有意差
3. 学会等名 一般社団法人日本看護研究学会第44回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松枝美智子、池田智、増満誠、山下真範、恵良友彦、中島充代、畑辺由起子、南裕子
2. 発表標題 不確かな時代を確かな看護で切り拓く為の人材確保の方略：精神看護のAPN育成に必要な教員確保に焦点を当てて
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田智
2. 発表標題 精神疾患患者への対応
3. 学会等名 第38回福岡救急医学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松枝美智子、宮崎初、増満誠、中本亮、池田智
2. 発表標題 精神医療の質評価と精神医療福祉人材数との関連に関する日本の研究の現状と今後の課
3. 学会等名 第39回看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年



1 . 発表者名 Satoshi Ikeda, Kayoko Koga, Kazumi Nishimura, Hisanori Hiro.
2 . 発表標題 Survey of violence on home care staff by patients and their families. (The third report).
3 . 学会等名 The 6th International Nursing Research conference of World Academy Nursing Science ( 国際学会 )
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Satoshi Ikeda, Kayoko Koga, Kazumi Nishimura, Hisanori Hiro.
2 . 発表標題 The relationship between occupational stress, work-life balance and work engagement of home care staff (The second report).
3 . 学会等名 The 6th International Nursing Research conference of World Academy Nursing Science ( 国際学会 )
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Satoshi Ikeda, Kayoko Koga, Kazumi Nishimura, Hisanori Hiro.
2 . 発表標題 The relationship between occupational stress, work-life balance and mental health of home care staff. (The first report).
3 . 学会等名 The 6th International Nursing Research conference of World Academy Nursing Science ( 国際学会 )
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Michiko Matsueda, Makoto Masumitsu, Ryo Nakamoto, Hajime Miyazaki, Satoshi Ikeda, Tomoyuki Yamamoto, Kaori Onitsuka, Hidekazu Hongo.
2 . 発表標題 Relationship between average of psychiatric hospital stay and number of Advanced Practice Nurses (APNs) worldwide: Literature revue.
3 . 学会等名 The 6th International Nursing Research conference of World Academy Nursing Science ( 国際学会 )
4 . 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 川野雅資	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 精神看護キーワード 多職種間で理解を共有するために知っておきたい119用語	

1. 著者名 ナーシング・サブリエイション編集委員会	4. 発行年 2017年
2. 出版社 メディカ出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 ナーシング・サブリエイション イメージできる病態生理学(改訂2版)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----